

【From Kobe 2023 11月】

収録2. 関西決戦の日本シリーズに関西は大盛り上がり  
日本シリーズに寄せて これぞ野球! そして関西人

コロナ禍が一段落して、ポストコロナの厳しい時代の秋にうれしいニュース

阪神対オリックス 関西対決の日本シリーズ

阪神なんば線シリーズ 関西では大盛り上がり

阪神優勝おめでとう!! 若者たちの躍動に元気をもらおう



阪神優勝おめでとう

故郷 阪神尼崎の商店街也大盛り上がり。  
夜遅くになっても LINE は仲間のメールが飛び交いました。  
尼崎の仲間から「阪神で盛り上がってごめん」とのメール。  
「阪神が勝ってもええよ。」  
山本を笑顔でアメリカへ送り出せる。ありがとう」と返信。  
私もそうですが、オリックスファンのほか みんな隠れ阪神。  
「神戸の凱旋パレードには 阪神のも オリックスのも  
どっちも行くぞ!!」と。うれしい関西の秋です

38年 待ちに待った



# 日本シリーズに寄せて これぞ野球 そして関西人と

神戸新聞コラム 正平調より 2023.11.7. Mutsu Nakanishi

## ◎2023.10.28. 日本シリーズ開幕の日の神戸新聞コラム「正平調」

優勝パレードで日本一の横断幕を掲げているのはどっち？ どちらであっても大歓迎。

神戸新聞発言欄に掲載された81歳の男性の投書に「子どもの頃からの阪神ファンだが、オリックスが勝っても『まあ、いいか』という気持ちだ」という81歳男性の投書が載っていた。

逆のパターンも含め、これがおおよそのファン心理と思いたい。

**正平調**

さぞ、ヤキモキしとだろう。プロ野球の阪神とオリックスの優勝パレードを11月23日あ施すると先月に決めていた兵庫―大阪府、経済界のみなさんのことだ。もし両チームが、いや片方でもクライマックスシリーズで負けていたら…◆神戸のフラワードと大阪の御堂筋で迎えるファンはどんな顔をすればいいのやら。そんな杞憂をあっさり吹き飛ばして、両チームがきょう日本シリーズで激突する◆関西対決は59年ぶり2回目、前回は最初の東京オリックスの年というから、歴史的な出来事といつていい。叶うことなら第7戦まで手に汗握る好ゲームを期待したい◆59年前、阪神にはリーグ最多の29勝を挙げたバッキー、2勝の村山実という大投手がいた。対する南海には「和製ベーブ」、野村克也がいた。今年の両チームに絶対的なスターはいないが、それがいい。監督の名采配が選手の力を存分に引き出している◆本紙発言欄に「子ども頃からの阪神ファンだが、オリックスが勝っても『まあ、いいか』という気持ちだ」という81歳男性の投書が載っていた。逆のパターンも含め、これがおおよそのファン心理と思いたい◆来月のパレードで日本一の横断幕を掲げているのはどっち？ どちらであっても、大歓迎。

2023.10.28

今回ばかりは関西はみんな同じ気持ちやなあ... ふむ ふむ ふむと。

それにしても今年の日本シリーズ 甲子園の阪神の大応援団。すごすぎた...

また、もう忘れかけていた阪神村山実さん そしてバッキー の名が出てきて、どっちも懐かしいなあ...と。

## ◎2023.11.6. 阪神が日本シリーズ 優勝を決めた後の11.10.の神戸新聞朝刊コラム「正平調」

遠くスタンドに向けて 放物線を描く打球は本当に美しい。

いろんな人の思いを乗せたボールが9回、高々と舞い上がる。これぞ野球

**正平調**

こよなく野球を愛し、野球を題材に多くの作品を手がけた作家の赤瀬川隼さんが書いている。「野球は球技の中で唯一、球がいくら遠くへ飛んでもかまわない開放的なスポーツである」◆遠くスタンドに向けて放物線を描く打球は本当に美しい。ナイターならカクテル光線にボールが浮かび上がり、緑の芝生を越えてぐんぐん伸びていく。そして球場中の視線がボールの行方にくぎ付けになる◆日本シリーズで阪神とオリックスが好ゲームを繰り広げていた最中、米大リーグでは一足先にレンジャーズが初制覇を果たした。試合を決定づけたのは、九回に飛び出した主力打者のホームランだ◆阪神は38年ぶりの日本一に輝いたが、こちらはチーム創設から63年目で初のチャンピオンである。この間、本拠地を東部ワシントンからテキサス州アーリントンへと移す。リーグ優勝こそあったものの、そこから先が遠かった◆今年のワールドシリーズは「リバウンドシリーズ」と報じられる。2年前、ともにシーズン100敗を喫したチームが勝ち上がった。リバウンドには「立ち直り」の意味がある◆63年目の初優勝、100敗からの立て直し。ファンに選手、いろんな人たちの思いを乗せたボールが9回、高々と舞い上がる。これぞ、野球。

2023.11.10

日本シリーズ第7戦 9回裏 大量リードされたオリックスの攻撃

いろんな人の思いを乗せたボールが9回、高々と舞い上がる。

一つは オリックス 頓宮のホームランの打球が舞い上がり そして最終打者杉本のレフトへの打球が阪神 ノイジーのグラブに収まった。目にはグラブに収まる打球の残像が残る。 ああ終わったと。

阪神 優勝おめでとう 満身創痍の中で戦ったオリックス よく頑張った。 関西にうれしい秋

今回の日本シリーズもまた、若者たちが躍動 今の日本に必要なのはこの若者のパワーだとつくづく。